



# 大いちょう

平成30年 6月 1日  
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成30年度 No. 3

048(829)2737

## 誉める

校長 並木 昌和

紫陽花が次々と咲いてきました。まもなく梅雨のはじまりです。

5月は6年生が修学旅行、5年生が館岩自然の教室といった集団宿泊行事が行われました。普段の教室では学ぶことのできないこと、自然の雄大さや素晴らしさに気づくこと、友達と力を合わせて成し遂げる経験、自分一人ではできないことでも周りの励ましやあたたかい声かけで勇気もらい、成し遂げることができた爽快感・・・この宿泊体験を通して多くのことを学び、感動を体験してきた5、6年生がこの経験をこれからの学校生活の中で生かしてくれることを期待したいと思います。

学校の中では子どもたちに感動させられる場面がたくさんあります。例えば、一生懸命に掃除に取り組んでいる子ども、先生の話真剣に聞いている子ども、いつも元気よく外遊びをする子ども、低学年の面倒をめんどくさがることなくよく見ている子ども、真っ先に元気よく挨拶することができる子ども等です。私たち大人はつい、掃除はサボらず一生懸命にやって当たり前！小さい子の面倒は見て当たり前！先生の話聞くのが当たり前！元気よく挨拶できて当たり前！という気持ちになってしまい、一人ひとりの子どもが頑張っていることを応援し、価値づけてあげることが忘れがちになります。そのため、できたことを積極的に認めることよりもできないことを指摘したり、誉めることよりも叱ったりすることの方が多くなってしまいます。幼いころのことを思い出してみると、叱られて何かが直った（よくなった）と言うことよりも、誉められてよい気持ちになり、またやってみよう、今度はもっとという気持ちになったことの方が多かったと思います。

過日、さいたま市教育委員会の計画訪問がありました。訪問された指導主事の方々が参観した各学級の子どもたちにカードを書িয়েくれました。「声の大きさがちょうどよかった」「話の聞き方上手にできていました」「あなたたちのやっていることは正しいことです」「これからも自信をもって取り組んでいきましょう」といった内容のことが書かれていました。もちろん、ここはもう少しといった要求も当然あったはずですが、しかし、子どもたちにそこを指摘したところで、どのようにしたらよいかを教えなければ単なる叱責に終わってしまいます。よいところを積極的に認め、みんなで伸ばしていこうという気持ちが1枚1枚のカードから感じ取ることができ、大変うれしく思いました。

6月は「いじめ撲滅月間」です。市内のどの学級でも子どもの発達段階に応じて、いじめをなくすためにどのようにしていこうかと話合いがなされ、具体的な行動目標が決められることとなります。子どもたちが自分たちの目線でいじめ撲滅について考え、取り組むことを期待します。

何気ない一言で傷つく友達がいること、傷つけていることに気が付かないで過ごしてしまいますことがあること、つらい思いは我慢する必要のないこと、誤りは素直に認めること等、子どもたちに重ねて伝えていきたいと思っています。